



Your Dreams, Our Challenge

低汚染型高耐候性フッ素樹脂塗料クリアー仕上

打放しコンクリート保護工法

BONNFLOON

ボンフロンACドライ-SR工法

ボンフロン水性クリアーコート工法

ボンフロンマットSRクリアー仕上

打放しコンクリートの 美しさを保ちながら、 優れた機能と意匠で護ります。

3つの低汚染型高耐候性フッ素樹脂塗料クリヤー仕上はそれぞれに優れた特長があります。
長期にわたりコンクリート素地の保護が可能のため、経済性も高く環境にも考慮した工法です。

ボンフロンAC ドライ-SR工法

素材を生かし自然の美しさを保つ

高い
意匠性

吸水防止
機能

光沢性と
透明性

P4-5へ

高耐候・経済性

ボンフロン水性 クリヤーコート工法

オール水性一液形塗料で扱いやすい

作業が
簡単

安全性が
高い

低公害性
で安心

P6-7へ

ボンフロンマット SRクリヤー仕上

完全艶消塗料で底艶が出ない

完全
艶消

安全性が
高い

補修材の
材料がある

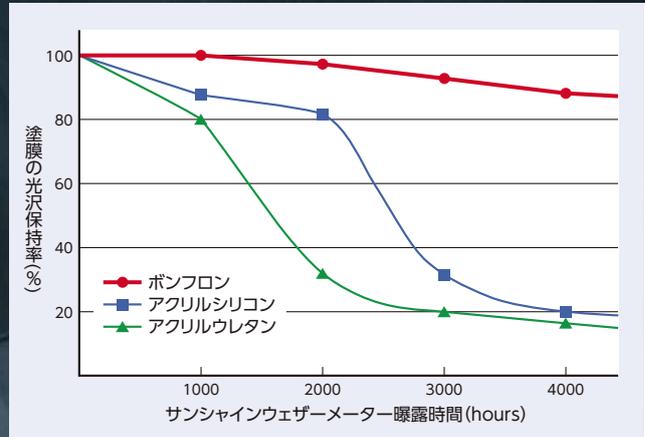
P8-9へ

高耐候性フッ素樹脂塗料 ボンフロンの特長

優れた耐候性と 様々なバリエーションをもつ フッ素樹脂塗料

ボンフロンは、フッ素樹脂ルミフロンの高い耐候性により長期間にわたって下地を保護し、塗装の美しさを保ちます。その優れた耐久性は実験室レベルの検証だけでなく、1983年の発売以来ご採用いただいていた施工実績で実証されています。

塗装が長持ちするので従来の塗料に比べ塗り替え回数的大幅な削減が可能になり、維持管理のための生涯費用(ライフサイクルコスト)の低減が実現します。さらに、塗料としての意匠性や機能性、環境対策への対応などのご要望にも積極的に応えています。



ボンフロンAC#1100 (#1500)SR上塗の促進耐候性試験

- 耐候性、耐久性
- 耐アルカリ性
- 経済性
- 塩害、酸性雨害
- 高い光沢性と透明性
- リコート性

低汚染機能(セルフクリーニング機能)

塗膜表面に親水・撥油性を持たせます。晴天時:油分成分を含む汚染物質を付着しにくくし、降雨時:雨水が全面的に流下して汚れを押し流すので雨筋ができにくくなります。

イメージ図



従来型

水滴は汚れの上をすべり落ちてしまいます



低汚染型

降雨時、水滴が汚れを押し流します

親水性比較(左:従来型 右:低汚染型)



雨筋比較(左:従来型 右:低汚染型)

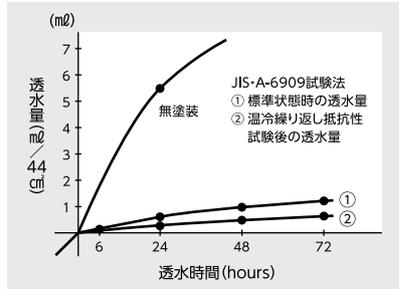


ボンフロンACドライ-SR工法

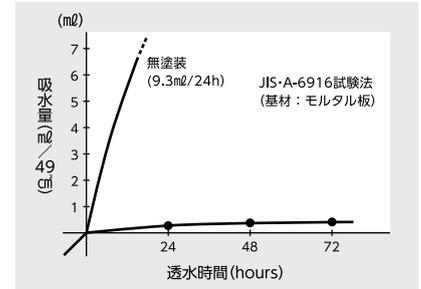
素材を生かし自然の美しさを保つ

浸透型吸水防止剤 ボンガードの特長

- 吸水防止性能
- 耐候性、耐久性
- 耐アルカリ性
- 塩害、酸性雨害
- 凍害、エフロ防止
- フクレ防止



【グラフ1】
浸透型吸水防止材 ボンガード 透水性試験結果



【グラフ2】
浸透型吸水防止材 ボンガード 吸水性試験結果

ボンフロンACドライ-SR工法 塗膜密着性能

(n=5平均値)

項目	結果	評価点数
1) 標準状態時	密着性 25/25	10
2) 浸水試験後	外観 異常なし	—
	密着性 25/25	10
3) 温冷繰り返し作用に対する抵抗性試験後	外観 異常なし	—
	密着性 25/25	10

※試験方法：JIS-A-6909 試験法参考
 ※測定方法：JIS-K-5400 基盤目テープ法参考(すきま間隔2mm、ます目の数25)
 ※基 材：コンクリート歩道板

ボンフロンACドライ-SR工法標準仕様

工 程	使用材料	調 合 主剤・硬化剤	希 釈 率 (%)	標準所要量 (kg/m ²)	塗回数	塗装間隔 (23℃)		施工方法
						工程内	工程内	
素地調整	補塗装面をチェックし、塗装に支障のある付着物、汚れ等を除去する。							
下 塗	ボンガード	—	既調合	0.13~0.16 0.16~0.22	1~2	指触	16h以上	刷毛・ローラー エアレス
中 塗	ボンフロンACドライ中塗	10 : 1	専用シンナー 0~10	0.10~0.13	1	—	16h以上	エアレス
上 塗	ボンフロンAC#1100SRクリアー または ボンフロンAC#1500SRカラークリアー	12.5:2.5	専用シンナー 0~30	0.08~0.11	1~2	指触	—	エアレス

備考：注1 下塗りは、コンクリート精度により、塗り回数が変わります。
 注2 コンクリート状態により、下地調整が必要な場合があります。

注 意

注1

塗装器具

塗装器具	材料名	ボンフロンACドライ中塗	ボンフロンAC#1100SRクリアー または ボンフロンAC#1500SRカラークリアー
エアースプレーガン		口径 2mmφ	口径 1.5mmφ
エアレス		チップ口径 0.5mmφ程度	チップ口径 0.33mmφ程度

注2

塗回数1回の塗装方法
 エアースプレーガン
 ……たて+よこ、たて+よこ(十字2回連続)
 エアレス
 ……たて+よこ(十字1回連続)
 ※幅広くしないで塗装する

注3

上塗りの使用量は塗回数2回分の使用量です。

設計施工上のご注意

- ポンフロンACドライ-SR工法はクリヤーまたはカラークリヤーで仕上げ、基材のありのままの姿を活かす工法です。そのため打放しコンクリートの補修はできるだけ少なくするようお願いします。
- やむを得ず補修を施した場合や、コンクリートの色ムラ等が発生した場合は、十分に乾燥した後、AC下地調整材Wにて下地調整してください。
- 塗装面は化粧目地または木コンの穴を活かす等、壁面を変化あるものに工夫願います。

塗装上のご注意

適応下地

- 打放しコンクリート面(塗装合板型枠使用)
普通プレキャストコンクリート板、押出成型セメント板(現地施工)

下地の条件

- 表面含水率10%以下(Kett高周波水分測定)
- pH10以下
- 下地の乾燥養生期間…… 夏期28日以上、冬期35日以上

よい仕上りのために特に注意すべきこと

- はり、突出し部、木繊維などの除去にはタガネで、はつり取ってください。
※ディスクサンダーの使用厳禁…… 使用するとムラ(濃色)になります
- 打放し面は、出来る限り補修を必要としない均質、均一な面が望ましいのですが、どうしても補修が必要な場合は下記の点に注意してください。
 - 補修材の色…… 躯体に近い色(若干、白めに合わせる。)
 - 補修材の色の配合目安…… 白セメント：普通セメント = 2：1
- 目印はウエスで簡単に拭き取れるものを使用してください(コンクリートの表面を汚す墨打ち等は避けてください)。
- コンクリート表面に付着した汚れ、泥土、コンパネの灰汁などはスルファミン酸+高圧洗浄で除去してください。錆汁は、稀酸+高圧洗浄で除去してください。サンドペーパーを使用する場合は、#180~240のできるだけ使用範囲を少なく、軽くかけてください。
- 離型材、油脂類等が付着している場合は、ラッカーシンナーで拭き取ってください。
- 金属類の除去…… 下地に残留する金属類(鉄筋、セパレーター番線、ビス、釘)などは除去してください。

調合上のご注意

- 塗料は2液反応硬化型なので配合比に注意して調合し、硬化剤添加後は電動マゼールで入念に攪拌し、混合ムラのないようにしてください。**
- 硬化剤は湿度と敏感に反応し、変質しやすい性質を持っています。使い残しの混合剤は使用後ただちに完全密閉してください
- 塗料は2液反応硬化型なので可使用時間を厳守し、材料の無駄を少なくするため可使用時間に合った量を設定して調合してください。
- シンナーは専用シンナーを使用してください。また施工時の気温によって蒸発程度が異なりますので、その都度適切なシンナーと塗料粘度を検討してください。
- ポンフロンACドライ中塗のシンナー希釈量は、指定量以内を厳守してください。多く入れると濡れ肌になります。

塗装上のご注意

- ボンガードは乾燥すると塗装した面と未塗装面の区別がつきにくくなりますので、未塗装箇所が残るのを避けるために、目地等を目安にしてブロック毎に塗装してください。
- ボンガードは一度に厚塗りすることなく、規定の塗布量を確実に塗布してください(ボンガードは浸透型ですので追いかけて塗りが可能です)。
- ポンフロンACドライ中塗は、塗布量と塗間隔を厳守してください。塗布量が少ない場合や塗間隔が短い場合は、濡れ色になります。
- ポンフロンAC#1100SRクリヤー・#1500SRカラークリヤーは規定の希釈量を守り、厚塗りすることなく規定の塗布量を塗布してください。特にポンフロンAC#1500SRはカラークリヤーのため、膜厚で色調が変わります。一度に厚塗りすると色調の修正ができず色ムラになるのでご注意ください。
- ボンガードに使用した塗装器具は、ラッカーシンナーで洗ってください。そのまま使用するとポンフロンをハジキますので、ラッカーシンナーでよく洗ってから使用してください。

労働環境

- 有機溶剤を使用するので換気や火気に十分注意を払い、施工者の健康管理に気をつけると同時に、周囲の環境にも十分注意してください。
- 詳細な情報が必要な時は、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

ボンフロン水性クリアーコート工法

オール水性一液形塗料で扱いやすい

ボンフロン水性ACガードコート表面含浸材評価

1. 含浸深さ試験(ボンフロン水性ACガードコート)

上記材料を塗布した試験体を2分割した後、1分間水に浸漬し、その断面から含浸深さの平均値を測定(試験方法:JSCE-K571-2005に準ずる)

測定箇所(n=6)	n=1	n=2	n=3	n=4	n=5	n=6	平均
含浸深さ(mm)	3.40	2.20	2.60	3.50	2.40	2.80	2.82

2. 透水比試験(ボンフロン水性ACガードコート+ボンフロン水性ACミドルコート+ボンフロン水性ラストコートII)

上記工法を塗布した試験体に透水試験機を取り付け、透水比を測定(試験方法:JSCE-K571-2005に準ずる)

	a) 試験体の透水量(ml)	b) 原状試験体の透水量(ml)	c) 透水比(%)= a) × 100 / b)
1日後	2.0	10.0	20.0
7日後	11.5	23.5	48.9

3. 吸水率試験(ボンフロン水性ACガードコート+ボンフロン水性ACミドルコート+ボンフロン水性ラストコートII)

上記工法を塗布した試験体を7日間水に浸漬し、その吸水率を測定(試験方法:JSCE-K571-2005に準ずる)

	質量(g)	7日浸水後質量(g)	吸水量(g)	吸水率(%)
試験体	2301.78	2304.42	2.64	37.08
原状試験体	2288.88	2296.00	7.12	—

ボンフロン水性クリアーコート工法 標準仕様

工程	使用材料 ^{注3}	希釈(%)	標準所要量 ^{注1} (kg/m ²)	塗回数	塗装間隔(23℃)	施工方法	
下地処理	被塗装面をチェックし、塗装に支障のある付着物、汚れ等を除去する。ジャンカ・コールドジョイントの下地処理など。						
1	下塗	ボンフロン水性ACガードコート ^{注2}	既調合	0.09~0.12	1	16h以上	刷毛・ローラー エアレス
				0.12~0.16			
2	中塗	ボンフロン水性ACミドルコート	既調合	0.10~0.12	1	4h以上	刷毛・ローラー エアレス
				0.12~0.16			
3	上塗	ボンフロン水性SRラストコートII	既調合	0.06~0.08	1	—	刷毛・ローラー エアレス
				0.08~0.11			

注1) 標準所要量については、各種施工方法の塗着効率を下記として算出しております。

施工種	塗着効率(%)
刷毛・ローラー	80~100
エアレススプレー	60~80

標準所要量を下まわらないでください。

注2) ① ボンフロン水性ACガードコートは素地の吸い込み程度により、塗装回数を調節してください。

素地の吸い込みが多い場合は2回塗装を行ってください。

② 各材料は下地に含浸するのに時間がかかりますので塗装間隔は必ず守ってください。

③ 各材料は使用前に必ず電動マゼールで入念に撹拌を行ってください。

注3) 内外部で施工可能ですが、内部施工の場合は局所排気などの手段を講じて十分に換気を行ってください。

注4) 本工法は外壁等の垂直面への塗装には問題ありませんが、天端等の水平面は環境が厳しく垂直面に比べ早く劣化します。

設計施工上の注意点

- ポンフロン水性クリヤーコート工法はクリヤーまたはカラークリヤーで仕上げ、基材のありのままの姿を活かす工法です。そのため打放しコンクリートの補修はできるだけ少なくするようお願いします。
- やむを得ず補修を施した場合や、コンクリートの色ムラ等が発生した場合は、十分に乾燥した後、AC下地調整材Wにて下地調整してください。

塗装上の注意

■ 適応下地

- 打放しコンクリート面(塗装合板型枠使用)
普通プレキャストコンクリート板、押出成型セメント板(現地施工)

■ 下地の条件

- 表面含水率10%以下(Kett高周波測定)
- pH=10以下
- 下地の養生期間は、夏季28日以上、冬季35日以上
- 表面の脆弱部分、未硬化のセメント粉化物、エフロ等は、研削、ハツリ、高圧水洗などの方法で十分除去して下さい。
尚、除去が不十分な場合、性能不良の原因となります。
- クラック、巣穴等は、セメント系処理材で事前に補修を行なって下さい。
- 補修材並びに下地調整材には、必ずセメント系の材料を使用して下さい。セメント系以外の材料を使用した場合、十分な性能が得られません。

下地が、上記条件に適合しない場合は、事前に付着等の性能確認試験により、異常の認められない事を確認した上で、施工して下さい。

■ 塗装上の注意

- 各材料は、使用前に必ず電動マザールで入念に攪拌を行って下さい。
- 各材料は、塗装時乳白色を呈しますが、乾燥すると透明になります。
- 下地補修が必要な場合は、必ずセメント系材料で行なって下さい。
- 必ず本仕様指定の材料を使用し、他の製品は絶対に使用しないで下さい。
- 各材料の所要量並びに塗り回数、必ず厳守して下さい。不足すると降雨等による水染みの原因となります。
- 各材料は、乾燥すると透明になり、塗装面と未塗装面の区別がつきにくくなりますので、塗り残しには、十分注意して下さい。
- 各工程での乾燥は、十分行なって下さい。乾燥が不十分な場合、仕上がりが悪くなったり、十分な性能が得られない場合があります。
- 本工法は、クリヤー仕上げのため、コンクリート本来の色のバラツキや打放し面の良否は、そのまま現われます。
- 本工法は、躯体上にクリヤー塗膜を形成するため、塗装前の艶や色調と異なる場合があります。
- カラークリヤー仕上げも可能です。色調は事前にサンプルで確認した上で、施工して下さい。
- 塗装器具は、使用後速やかに清浄を行なって下さい。
- 気温5℃以下、湿度85%以上での塗装作業は、避けて下さい。
- 外部塗装で降雨、降雪の恐れがある場合及び強風時の塗装は避けて下さい。
- 下地調整材が施工されている場合は、吸込みが少なく下塗材がだれる事が予想されますが、仕上がりに影響はありません。
ポンフロン水性ACガードコートの塗布量が少ないと、塗装仕上げ後の雨染みなどの原因となるため標準所要量、塗装回数を遵守願います。

ボンフロンマットSRクリヤー仕上

完全艶消塗料で底艶が出ない

ボンフロンマットSRクリヤー仕上 標準塗装仕様

工程	使用材料 ^{注3}	希釈(%)	標準所要量 ^{注1} (kg/m ²)	塗回数	塗装間隔(23℃)	施工方法	
下地処理	被塗装面をチェックし、塗装に支障のある付着物、汚れ等を除去する。ジャンカ・コールドジョイントの下地処理など。						
1	下塗	ボンフロン水性ACガードコート ^{注2}	既調合	0.09~0.12	1	16h以上	刷毛・ローラー
				0.12~0.16			エアレス
2	中塗	ボンフロン水性ACミドルコート	既調合	0.10~0.12	1	4h以上	刷毛・ローラー
				0.12~0.16			エアレス
3	上塗	ボンフロンマットSRクリヤー	既調合	0.05~0.06	1	—	刷毛・ローラー
				0.06~0.08			エアレス

注1) 標準所要量については、各種施工方法の塗着効率を下記として算出しております。

施工種	塗着効率(%)
刷毛・ローラー	80~100
エアレススプレー	60~80

標準所要量を下まわらないでください。

注2)

ボンフロン水性ACガードコートは素地の吸い込み程度により、塗装回数を調節してください。
素地の吸い込みが多い場合は2回塗装を行ってください。

注3)

- ①内外部で施工可能ですが、内部施工の場合は十分に換気を行ってください。
- ②各材料は下地に含浸するのに時間がかかりますので塗装間隔は必ず守ってください。
- ③各材料は使用前に必ず電動マゼールで入念に攪拌を行ってください。

注4)

直接降雨が当たる水平面への施工は避けてください。

注5)

マットSRクリヤーはカラークリヤー不可。
カラークリヤーの場合、水性SRラストコートIIを選択してください。

塗装上の注意

■ 適応下地

- 打放しコンクリート面(塗装合板型枠使用)
普通プレキャストコンクリート版、押出成形セメント板(現地施工)

■ 下地の条件

- 表面含水率10%以下(Kett高周波測定)
- pH=10以下
- 下地の養生期間は、夏季28日以上、冬季35日以上
- 表面の脆弱部分、未硬化のセメント粉化物、エフロ等は、研削、ハツリ、高圧水洗などの方法で十分除去して下さい。
尚、除去が不十分な場合、性能不良の原因となります。
- クラック、巣穴等は、セメント系処理材で事前に補修を行なって下さい。
- セメント系以外の材料を使用した場合、十分な性能が得られません。

下地が、上記条件に適合しない場合は、事前に付着等の性能確認試験により、異常の認められない事を確認した上で、施工して下さい。

■ 塗装上の注意

- 各材料は、使用前に必ず電動マゼールで入念に攪拌を行って下さい。
- 各材料は、塗装時乳白色を呈しますが、乾燥すると透明になります。
- 上塗材は、比重の軽い特殊素材を使用している為、塗料は乳白色で、分離している場合があります。
必ず電動マゼールで攪拌を行った後、使用してください。また、膜厚が厚くなると白い色ムラが発生するので注意してください。
- 下地補修が必要な場合は、必ずセメント系材料で行なって下さい。
- 必ず本仕様指定の材料を使用し、他の製品は絶対に使用しないで下さい。
- 各材料の所要量並びに塗り回数、必ず厳守して下さい。不足すると降雨等による水染みの原因となります。
- 各材料は、乾燥すると透明になり、塗装面と未塗装面の区別がつきにくくなりますので、塗り残しには、十分注意して下さい。
- 各工程での乾燥は、十分行なって下さい。乾燥が不十分な場合、仕上がりが悪くなったり、十分な性能が得られない場合があります。
- 本工法は、クリヤー仕上げのため、コンクリート本来の色のバラツキや打放し面の良否は、そのまま現われます。
- 本工法は、躯体上にクリヤー塗膜を形成するため、塗装前の艶や色調と異なる場合があります。
- 塗装器具は、使用后速やかに水洗いを十分行なって下さい。
- 気温5℃以下、湿度85%以上での塗装作業は、避けて下さい。
- 外部塗装で降雨、降雪の恐れがある場合及び強風時の塗装は避けて下さい。
- AC下地調整材Wが施工されている場合は、吸込みが少なく下塗材がだれる事が予想されますが、仕上がりにへの影響はありません。
ボンフロン水性ACガードコートの塗布量が少ないと、塗装仕上がり後の雨染みなどの原因となるため標準所要量、塗装回数を遵守願います。

ボンフロンACドライ-SR工法



沖縄美ら海水族館

沖縄美ら海水族館は、国営沖縄記念公園の海洋博覧会地区の新たな拠点として2002年11月1日に開館しました。沖縄地区の強烈な紫外線から建物を保護する為に優れた耐候性が要求されました。現在も沖縄の過酷な環境の中建物を保護しております。

- 所在地：沖縄県国頭郡
- 竣工：2000年(平成12年)
- 設計：国建
- 施工：鹿島建設
- 下地素材：コンクリート
- 塗装工法：ボンフロンAC



北上文化センター さくらホール

上層部は、白色のカラークリヤーを使用してホワイトコンクリート風に仕上がっており、低層部は、コンクリート色のカラークリヤーを使用しています。打ち放しコンクリート仕上げですが、カラーを生かした仕上げになっています。

- 所在地：岩手県北上市
- 竣工：2003年(平成15年)
- 設計：久米設計
- 施工：鹿島建設JV
- 下地素材：コンクリート
- 塗装工法：ボンフロンACドライ-SR



時事通信本社ビル

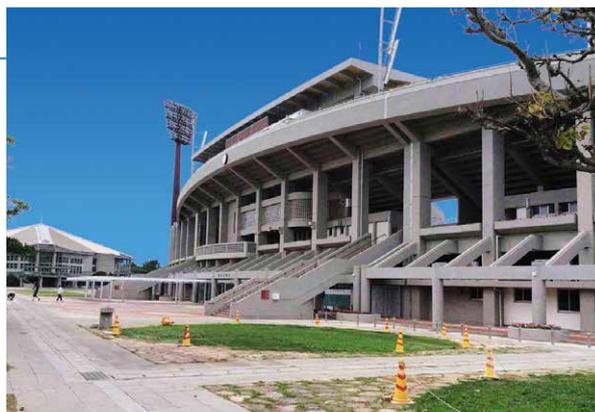
アーキテクチャルコンクリートで初のAC工法の施工例です。とても評判になり、アーキテクチャルコンクリートのクリヤー仕上げのお手本物件として現在も注目度の高い施工例です。

- 所在地：東京都中央区銀座
- 竣工：2002年(平成14年)
- 設計：鹿島建設
- 施工：鹿島建設
- 下地素材：プレキャストコンクリート
- 塗装工法：ボンフロンACドライ-SR

沖縄県総合運動公園陸上競技場

この競技場は、1987年に開かれた国体の開催を記念して建設されました。当時はコンクリートの外壁に撥水処理が施されている程度だったため表層が著しく劣化していました。今回の改修工事では、沿岸部近くに立地していることから、耐候性の高い「ボンフロンACドライ-SR工法」が採用されました。老朽化が激しかった競技場は「沖縄県内初のJリーグ規格サッカー場」として生まれ変わり、たくさんのサッカーファンの歓声が響くようになりました。

- 所在地：沖縄県沖縄市
- 竣工：2015年(平成27年)
- 設計：株式会社久米設計
- 施工：(株)大米建設・(株)東洋土木工業・(株)善太郎組・(株)郷建設
- 下地素材：打ち放しコンクリート
- 塗装工法：ボンフロンACドライ-SR



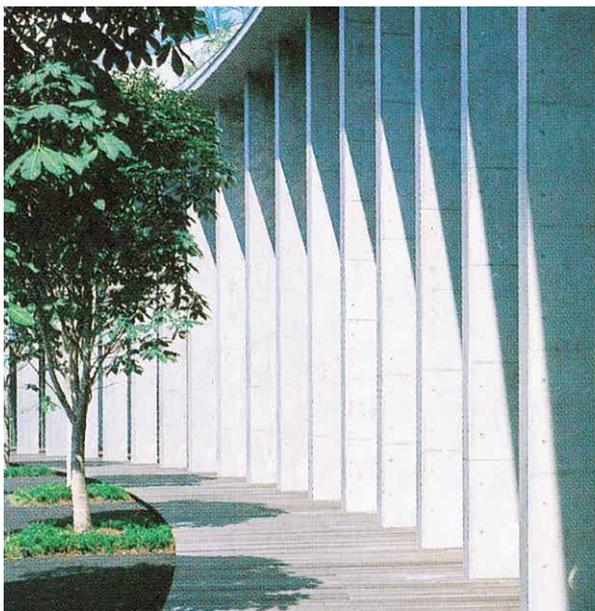
ボンフロン水性クリヤーコート工法

国立新美術館



「森の中の美術館」として日本最大の美術館がトレンドの先端を行く六本木に誕生しました。六本木ヒルズと東京ミッドタウンを左右に従え、独特のデザインで話題を呼んだ黒川先生の作品です。フッ素樹脂クリヤーでコーティングされたRC・PCによって魅力あるカーテンウォールを演出しています。

- 所在地：東京都港区六本木
- 竣工：2006年(平成18年)
- 設計：黒川紀章建築都市設計事務所・日本設計
- 施工：清水建設
- 下地素材：コンクリート、プレキャストコンクリート
- 塗装工法：ボンフロン水性AC-SR



秩父市歴史文化伝承館

この建物は、屋上緑化・雨水の利用など環境に配慮した秩父の歴史文化のガイダンス機能を備えた複合施設になっています。見せ場である低層部ファサードの列柱廊を中心に素朴な打ち放しコンクリートを、フッ素樹脂クリヤーが保護しています。毎年この前が、秩父夜祭のメイン広場になります。

- 所在地：埼玉県秩父市
- 竣工：2002年(平成14年)
- 設計：日本設計
- 施工：高橋組
- 下地素材：コンクリート
- 塗装工法：ボンフロン水性AC-SR

新座市役所 新庁舎

新座市の新たなシンボルとして2018年1月に開庁した新庁舎には、長期に亘って耐候性を発揮する環境対応型水性フッ素樹脂クリヤー塗料「ボンフロン水性クリヤーコート工法」が採用されました。

フッ素樹脂塗料による、重厚感のある上質な仕上がりがコンクリートの風合いを引き立てています。

- 所在地：埼玉県新座市
- 竣工：2017年(平成29年)
- 設計：石本建築事務所
- 施工：銭高組
- 下地素材：コンクリート
- 塗装工法：ボンフロン水性クリヤーコート工法



コンクリート下地の調整 打放し面の著しい色調の差・補修跡などの色調調整が可能です。

【全面調整の場合:AC下地調整材W】

- ボンフロン打放しコンクリート保護工法用の専用下地調整材で、多様な打放しコンクリート面の色調調整に対応できます。
 - 水性一液タイプで、特殊合成樹脂バインダーを主成分としており、コンクリートからのエフロの発生を抑制します。
- ※詳しくは、AC下地調整材Wの説明書をご覧ください。

【部分調整の場合:ボンフロン水性GT】

※水性仕様のみ適用

- 中塗塗装後に模様合わせができます。
- 水性フッ素塗料で模様合わせしますので劣化しません。
- 水性塗料なので、パッティングし易いです。

材料荷姿

	材料名	入 目	
下地調整	AC下地調整材W 白	15kg/缶	2kg/缶
	AC下地調整材W用トナーセット (黒・赤錆・オーカー 各0.1kgセット)	0.3kg/セット	—
下塗	ボンガード	16L/缶	—
	ボンフロン水性ACガードコート	15kg/缶	4kg/缶
中塗	ボンフロンACドライ中塗	11kg/セット	4.4kg/セット
	ボンフロン水性ACミドルコート	15kg/缶	4kg/缶
上塗	ボンフロンAC#1100クリヤー	14kg/セット	4kg/セット
	ボンフロンAC#1100SRクリヤー	15kg/セット	4kg/セット
	ボンフロンAC#1500カラークリヤー	14kg/セット	4kg/セット
	ボンフロンAC#1500SRカラークリヤー	15kg/セット	4kg/セット
	ボンフロン水性SRラストコートII	15kg/缶	4kg/缶
	ボンフロンマットSRクリヤー	13kg/缶	3.5kg/缶

材料保管上の注意

- 材料は、不純物の混入防止、低温時の凍結防止などの品質管理上、出来るだけ屋内に保管してください。
水性塗料は、0度以下の保管では凍結します。
やむを得ず屋外で保管する場合は、敷板の上に置き、保護シート等でカバーしてください。
- 塗料、シンナー、主材、硬化剤などは、危険物取り扱い商品に該当するものがありますので、保管場所に必ず危険物表示を行い、消火器を設置してください。
また、溶剤系材料の現場納入は、消防法で決められた指定数量範囲内をお願いいたします。
- 詳細な情報が必要な場合は、製品安全データシート(SDS)をご参照ください。

AGC

Your Dreams, Our Challenge



ルミフロンはAGC株の登録商標です。ボンフロンはAGCコーテック(株)の登録商標です。

AGCコーテック株式会社 <https://www.agccoat-tech.co.jp/>

本 社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9 コンフォール安田ビル5F TEL : 03-5217-5101 FAX : 03-5217-5106
西日本支店 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル12F TEL : 06-7663-0695 FAX : 06-7663-0697